

アメリカの方言に於ける母音の音韻論的研究

小林 泰 秀

アメリカの方言による言語の相異は、イギリスのそれに比べると少ない。アメリカ人数人に、ある方言の発音を聞かせると、「それはニューイングランドで聞かれる。それは南部の発音だ。それはブルックリンで話しているよ。」と云う。彼らは自分達の方言とは違う方言がアメリカに存在していないのを知っていると同時に、その発音された語、文の意味を把握するに苦勞しない。そしてそれがどこの方言であるか分る者も多いのである。日本では青森の人と鹿児島の人では、話が通じない、と話してやると、驚き、私に方言を話してくれと逆にたずねる。

アメリカ方言で、統治上の境界で相異を生じる傾向は、若い国である為ほとんどないと云っても良い程であるが、移住民によつての相異は良く見られる。例えば、ペンシルバニア西部には、本来アイルランド東部の Scots Presbyterian 州からの移民が多い為、Ulster Scots (アルスター・スコットランド方言) の特徴が見られる。とは云つても、アメリカ方言がすべてイギリスの方言と同じではない。新しい移住民は自分達の古いものとは異なる言語を作り出すからである。

地図の上に言語相異のはっきりした境界線を引くことは不可能であるが、Thomas(1958)、Leutenegger (1963) に従つて、大まかに次のページに挙げる10地方に分ける。

二重母音化

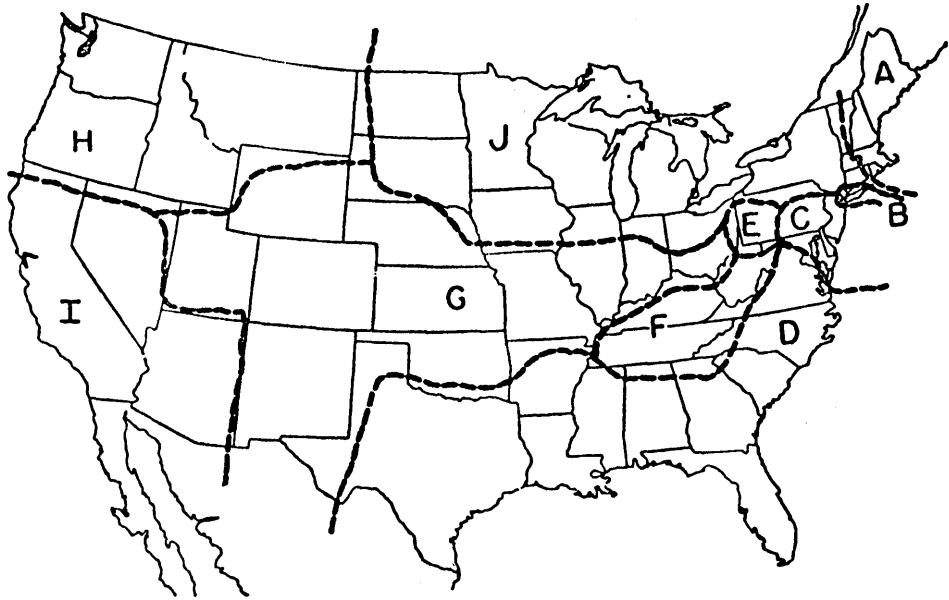
英語の二重母音を緊張母音と考え、(1)の緊張母音が規則(2)により二重母音化したと考えられる。

- (1) i ū
 ē ō
 æ ā

$$(2) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} +high \\ \alpha \text{ back} \\ V \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} \alpha \text{ back} \\ +tense \\ V \end{array} \right] \text{---}$$

もし無標の緊張母音 (unmarked tense vowel) が二重母音であるかないかで、緊張母音か弛緩母音かを区別すると考えると、次の(3)の規則が成り立つ。

$$(3) \quad \left[\begin{array}{c} \alpha \text{ back} \\ u \text{ tense} \\ V \end{array} \right] \rightarrow [\beta \text{ tense}] / \text{---} \left[\begin{array}{c} \alpha \text{ back} \\ \beta V \end{array} \right]$$



A : Eastern New England; B : New York City; C : Middle Atlantic; D : Southern; E : Western Pennsylvania; F : Southern Mountain; G : Central Midland; H : Northwest; I : Southwest; J : North Central.

どちらの規則でも良いようであるが、アメリカの方言をみる時、(3)の規則では *bid* を [bɪ^ɹd] と発音し、*bit* を [bɪt] と発音する地方では、*bid* の /ɪ/ を緊張母音とし、*bit* の /i/ を弛緩母音にするということになる。従って規則(3)は妥当な規則とは云えない。緊張で云うのと、緊張母音であるのとは、同じことではない。

規則(2)は現在の英語を見ての規則である。ここで緊張母音の次に高母音を挿入するという意味は、*apple, orange* が [æɪpəl], [ɔvɪŋ] とならない為であり、基底表示では緊張母音と弛緩母音を分けている。便宜上緊張母音の上に線を引き、/æ̃/ とし、弛緩母音 /æ/ と区別する。一方、Chomsky-Halle (1968) は歴史的見地から Diphthongization, Vowel Shift の規則を提案している。参照されたし。

(1)に挙げた6つの緊張母音以外の母音はほとんどの地方で弛緩母音として扱われるが、New York と South では緊張母音 /ɜ/ がある。規則(2)により /ō/ は /oi/ とはならないし、*noisy, point* を [nozi~nozi], [pont~pont] と単母音に発音する地方も知られていない。基底表示を /ōi/ とし、/i/ の前で弛緩母音化する説には妥当性がないので、基底表示を /oi/ とし、/ōu/ と区別する方が良い。[ɔɪ] という発音はあるが [oɪ] という発音は聞かれないのである。

規則(2)の適用しない地方として特に顕著な例は、North Central と South Carolina の海岸地方に見られ、単母音として、[ɪ], [u] (South Carolina では [ʉ]), [e], [o] と発音されているが、低母音は二重母音化され、これらの地方は、規則(2)が適用されるのは非底母音の場合である。

高母音 /i/, /ū/ が単母音で発音されるのは、Eastern New England, New York, North Central に多く、Northwest, Southern Coastal では二重母音と単母音の両方が聞かれる。Middle Atlantic と Western Pennsylvania の一部では、/ō/ と /ū/ が単母音になり、South (Charleston 地方)、North Central では /ē/ が単母音になっている。

/ɜ/ を緊張母音と見なし、規則(2)により /ɜi/ となるのは、特に New York と South に見られる。Kurath (1964, 1972)によると、歴史的には /ɜ/ は中世英語の *ir, ur, er* の連続音である /ar/ から派生されたものであるが、[ar] は今ではアメリカでは聞かれない。イギリスには [ar] と [ɜ] が異音として存在しているのである。

South Carolina 海岸地方には、高、中緊張母音に schwa /ə/ を挿入する規則がある。

$$(4) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} [+ \text{consonantal}]$$

規則(4)により、*gris*→*gri°s* 'greese', *pik*→*pi°k* 'peak', *fud*→*fu°d* 'food', *kem*→*ke°m* 'came', *bot*→*bo°t* 'boat' となるが、*join* は弛緩母音の為、[jō°n] とはならないし、*/dē/* 'day' は次に子音がない為、[de°] とはならない。又、この地方では [ha°s] 'house', [sa°θ] 'South' とならない為、低母音には適用されない。

Kurath (1964) は schwa 挿入のことに関し、*bid, bed, bud, good* が [bi°d], [be°d], [bʌ°d], [gʌ°d] と発音されるのは South では一般的であり、North や North Midland でも *give, bed, love, good* 等を特に緊張で云う場合は、[gi°v], [be°d], [lʌ°v], [gʌ°d] と発音することがあると述べている。規則(4)がこれらの地方にも適用されるのであれば、schwa 挿入規則は大ざっぱに規則(5)と書けるであろう。

$$(5) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} [+ \text{consonantal}]$$

しかしながら、緊張母音の次に schwa を挿入するのと、弛緩母音の次に schwa を挿入するのでは、性格が異なるのである。弛緩母音の次に schwa を挿入する場合、次に有聲子音が来なければならない。よって規則(5)は規則(4)とは別の規則(6)に改められなければならない。

$$(6) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} \left[\begin{array}{c} +\text{consonantal} \\ +\text{voice} \end{array} \right]$$

規則(6)は後で述べる弛緩母音化規則の次に適用されるべき規則であるが、規則(4)との相異を説明する為、ここに書いた。dog が [dɔ°g] とならないのは /o/ が弛緩母音化規則により、低母音 /ɔ/ となる為である。弛緩母音 /e/ と /ɔ/ を比べると、アメリカでは、/e/ は低め中母音 (lower-mid) であり、/ɔ/ は中母音よりもむしろ高め低母音 (higher-low) である。

英語の一般的な規則として、有声子音の前の母音が、無声子音の前の母音より長く発音されるのであるが、規則(6)と関連がある。しかし [bæt] 'bat' と [bæ°d] 'bad' に見られるような低母音の変化は規則(6)では起らず、bad は [bæ°d] と発音されない。イギリス、特にロンドンでは、無声子音の前でも二重母音化し、[kæ°t] 'cat' という発音がある。

Kurath (1964) によると、South と South Midland では、/æ/ は無声破裂音の前を除いて二重母音化し、[æ°~æ°] となる。

$$(7) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ -\text{back} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---}$$

規則(7)により、bæg→bæ°g~bæ°g 'bag', hæf→hæ°f~hæ°f 'half', æš→æ°š~æ°š 'ash', dæns→dæ°ns~dæ°ns 'dance' となる。

/æ/ を緊張母音 /æ/ と同様に考え、規則(2)の二重母音化を適用し、/æi/ とし、/i/ を中舌化するという説も考えられるであろう。しかしこの説では、fine ([fa°n~fa°n]) と fan ([fæ°n~fæ°n]) が同じく発音されることになるので、妥当な説とは云えない。

/æ/ の次に無声破裂音の来る場合は、[æ] と発音され、hat, back, cap は [hæt], [bæk], [kæp] である。規則としては、無声破裂音以外の要素の前で /æ/ が /æ°~æ°/ となると考えるのと、無声破裂音の前で /æ°~æ°/ が /æ/ となると考えるのと、どちらが妥当であろうか。まず、無声破裂音以外の要素の前で /æ/ が /æ°~æ°/ となると考えると、規則は次のようになる。

$$(8) \quad \phi \rightarrow \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ +\text{central} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ -\text{back} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} \left\{ \begin{array}{c} \# \\ \left[\begin{array}{c} -\text{continuant} \\ -\text{strident} \\ +\text{voice} \end{array} \right] \\ \left[+\text{continuant} \right] \\ \left[+\text{strident} \right] \end{array} \right\}$$

無声破裂音の前で /æⁱ~æə/ が /æ/ になると考えると、規則(7)を適用してから次の規則(9)が適用される。

$$(9) \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ +\text{central} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow \phi / \left[\begin{array}{c} -\text{low} \\ -\text{back} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} \left[\begin{array}{l} -\text{continuant} \\ -\text{strident} \\ -\text{voice} \end{array} \right]$$

これらの規則から明らかなように、規則(7)と(9)は、規則(8)よりも妥当である。従って *bag* は規則(7)だけが適用されて /bæⁱg~bæəg/ となり、*hat* は規則(7)と(9)が適用されて

$$\text{hæt} \xrightarrow{(7)} \text{hæ}^i \text{t} \sim \text{hæ}^i \text{t} \xrightarrow{(9)} \text{hæt} \text{ となる}^{1)}。$$

規則(2)で /æ/ は /æi/ となり、次の規則で /æi/ が /ai/ となる。

$$(10) \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ -\text{back} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [+central]$$

[a] は中舌低母音と呼ばれる一方、半前舌もしくは前中舌低母音と呼び、前舌であって中舌に近いとする学者も少なくない²⁾。

[aɪ] は South と Southern Mountain を除く地方では支配的である³⁾。

規則(2)で /ā/ は /au/ となるが、[aʊ] は Eastern New England, Western Pennsylvania, North West, Southwest Coastal で支配的である。South と Southern Mountain を除くその他の地方、New York, Middle Atlantic, Central Midland では [aʊ] が多く、これらの地方では規則(10)と一緒にした次の規則(11)が適用される。

$$(11) \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [+central]$$

South と Southern Mountain の一部では [æʊ] が聞かれ、次の規則(12)が適用される。

$$(12) \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ +\text{back} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [+front]$$

1) New England と South で、*egg*, *leg* 等 /g/ の前で [ɛⁱ] という発音が聞かれることがあるが、これは /ɛ/ が /g/ の前で /ɛⁱ/ になると考えた方が良く、上のように /ɛ/→/ɛⁱ/→/ɛ/ と考えるのはおかしい。

2) 同じ音声記号でも発音の相異は方言差でかなりある。例えば [a] は Kurath (1964) によると前舌もしくは中舌低母音であり、Leutenegger は前中舌もしくは前舌低母音と呼び、Thomas は中舌あるいは前中舌低母音と呼んでいる。なお Gimson (1970) は母音の音声上の相異を分りやすく図に書いて示している。参照されたし。

3) South と Southern Mountain でも [æɪ] という発音はなく、規則(10)が適用され、[a^ɛ, a^ə] が多い。

弛緩母音と弛緩母音化

緊張母音でない母音は、次の規則で弛緩母音となる。

$$(13) \left[\begin{array}{c} \text{u tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [-\text{tense}]$$

規則(13)はすべての弛緩母音に適用する。

/i:/→/ɪ/, /ūu/→/ʊ/, /ēi/→/eɪ/, /ōu/→/oʊ/, /āi/→/aɪ/, /āu/→/aʊ/, /i/→/ɪ/, /u/→/ʊ/, /e/→/ɛ/, /o/→/ɔ/, /ɪ/→/ɪ/.

中舌中母音には /ɜ/ と /ə/ があるが、規則(4)、(6)、(7)で /ə/ が挿入されるということは、規則(13)で /ɜ/ が /ə/ になることではない。/ɜ/ が [ə] と発音される場合は強勢(stress)のない母音の為である。これを規則(13)で /ɜ/ が /ə/ になると考えると、[mɜmə~mɜmə] ‘murmur’ のような発音はなくなり、*[məmə~məmə] という発音になってしまう。規則(13)は中舌中母音 /ɜ/ には適用出来ないのである。もし /ɜ/ を強勢母音と考えずに緊張母音と考えると、規則(4)、(6)、(7)の挿入規則は、緊張母音を挿入することになりおかしい。よって、規則(4)、(6)、(7)は上述の如く、弛緩母音挿入規則とするべきである。中舌中母音 [ɜ] と [ə] の基底表示は /ɜ/ でなければならないことはなく、/ə/ とし、強勢がある時は /ə/ が /ɜ/ になるとしても良いのであるが、他の母音も合せて考えると /ɜ/ を基底表示にした方が良い。

規則(13)を適用する順序は方言によって異なる。前に述べたが、規則(6)は非低母音の次に /ə/ を挿入するから、*dog* は /doəg/ とはならず、規則(6)は規則(13)の次に適用されるべきである。又、ある地方では /r/ の前の低母音を長母音にし、[hɔɪs] ‘hoarse’, [fɑɪm] ‘farm’ であるが、非低母音は長母音にならず [fɪəs] ‘fierce’, [pʊə] ‘poor’, [skæəs] ‘scarce’ である。この規則も規則(6)と同じように規則(13)の次に適用されなければならない。しかしある地方では *horse* は [hɔəs], *door* は [dɔə] というように /ɔ/ を非低母音として規則を適用し、/r/ を /ə/ にしている。これは [ɔ] をこの地方では中母音に発音しているという訳ではない。規則(13)の前に非低母音の次の /r/ を /ə/ にする規則を適用しているのである。つまり、基底表示 /or/ に適用し、/oə/ とし、規則(13)で /oə/ となるのである。このように規則(13)は、ある地方ではある規則の前に適用され、ある地方ではその規則の次に適用されるのである。これらの規則については後でくわしく述べる。

Philadelphia と Ohio の溪谷地方では、二重母音 [ɔʊ], [eɪ] が聞かれる。

$$(14) \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [-\text{tense}]$$

他のほとんどの地方は規則(14)は適用されず、[keɪm] ‘came’, [roʊd] ‘road’ と発音している。

アメリカの多くの地方、特に New York, North Central, North West, Southwest Coastal では、*mourning* と *morning*, *hoarse* と *horse* は同じく [mɔrnɪŋ~mɔənɪŋ~mɔɪnɪŋ], [hɔrs~hɔəs~hɔɪs] と発音され、基底表示 /mɔrnɪŋ/, /hɔrs/ に規則(13)が適用されている。

一方、New England と South では以上の二つを区別して発音し、[mɔənɪŋ] ‘mourning’, [mɔɪnɪŋ] ‘morning’, [hɔəs] ‘hoarse’, [hɔɪs] ‘horse’ である。このように区別する地方では基底表示を /ovr/ </ōr/ と /or/ に考える。 /ovr/ の語としては /mɔvrnɪŋ/ ‘mourning’, /hovrs/ ‘hoarse’, /bovrɔ/ ‘board’, /flour/ ‘floor’ 等があり、通常 [ovr] とは発音されない⁴⁾ のであるが、アメリカ人に [mɔvrnɪŋ] と発音しても不思議に思わず、*mourning* の意味に取り、[mɔrnɪŋ] は *morning* の意味に取る。これは [o] と [ov] によって意味の異なる二つの語が存在しない為である。 /ovr/ の /v/ は、後で述べる規則によって消去される。

mourning と *morning*, *hoarse* と *horse* が同じく [mɔrnɪŋ], [hɔrs] と発音される地方、つまり、基底表示が /ovr/ である地方は、Western Pennsylvania, Southern Mountain, Central Midland である。

緊張母音に強勢のない場合は弛緩母音になる。

$$(15) \begin{bmatrix} -\text{stress} \\ +\text{tense} \\ \text{V} \end{bmatrix} \rightarrow [-\text{tense}]$$

規則(15)によって、dɔgslɪp→dɔgslɪp ‘dogsleap’, brɔdʃɪt→brɔdʃɪt ‘broadsheet’, dɔgtvʊθ→dɔgtvʊθ ‘dogtooth’, kætʃvʊd→kætʃvʊd ‘catfood’, pænkeɪk→pænkeɪk ‘pancake’, hɛdeɪk→hɛdeɪk ‘headache’, bændmeɪd→bændmeɪd ‘bondmaid’, bɔvldfeɪs→bɔvldfeɪs ‘boldface’, nɛrɔv→nɛrɔv ‘narrow’, tɛləfəvɔn→tɛləfəvɔn ‘telephone’, mænɦovl→mænɦovl ‘manhole’ となる。

消去と Schwa 化

次の規則(16)は、特に Eastern New England, New York, South に適用される規則であり、(a) (b) の順に適用されて、/r/ が消去されるか、schwa [ə] に発音されるかである。

$$(16) \begin{bmatrix} +\text{vocalic} \\ +\text{consonantal} \\ -\text{anterior} \end{bmatrix} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \phi / \begin{bmatrix} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ \text{V} \end{bmatrix} \\ \left[\begin{array}{l} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{l} -\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \end{array} \right\} \text{---} (\#) ([+\text{consonantal}])$$

(a)

(b)

4) /ov/ の次の /r/ が次の音節の最初の音素である場合、[ov] も聞かれる。従って、*glory* は [glɔri] という発音に加えて [glɔvri] もある。

規則(16)が適用出来るのは語尾か子音の前であり、*later a goose* や *or a few* のように /r/ が語尾であっても次の語の語頭に母音が来る場合は適用されない。規則(16)の(a)により、 $m3r\bar{m}3r \rightarrow m3m3$ 'murmur', $p3rv3rs \rightarrow p3v3s$ 'perverse', $leit3r \rightarrow leit3$ 'later', $b3rd \rightarrow b3d$ 'bird' となる。規則(16)の(b)により、 $firs \rightarrow fiəs$ 'fierce', $pvr \rightarrow pvə$ 'poor', $skers \rightarrow skɛəs$ 'scarce', $hours \rightarrow hovəs$ 'hoarse', $dovr \rightarrow dovə$ 'door',⁵⁾ $fair \rightarrow faiə$ 'fire', $flavr \rightarrow flavə$ 'flower' となるが、低母音 /kar/ 'car' は [kæə] とはならない。もし (a) (b) を逆に (b) (a) の順で適用すると、/m3r\bar{m}3r/, /b3rd/ は [m3ə\bar{m}3ə], [b3əd] となり、この地方にない発音を派生する。

New England と South には [kæə] 'care', [stæəz] 'stairs' という発音が聞かれる。(16)の(b)の規則は /æ/ が低母音の為適用出来ないように見えるが、基底表示が /ker/, /sterz/ であるので、(16)の(b)は適用出来る。

$ker \rightarrow keə$, $sterz \rightarrow stæz$.

(16)の(b)を適用後、/ε/ が /ə/ の前で /æ/ になる。

強勢のない二重母音の2番目の母音が消去される。

(17) $V \rightarrow \phi / \left[\begin{array}{l} +mid \\ -stress \\ V \end{array} \right] \text{---}$

$p\bar{e}nkeik \rightarrow p\bar{e}nkek$, $b\bar{a}ndmeid \rightarrow b\bar{a}ndmed$, $n\bar{e}rov \rightarrow n\bar{e}ro$, $m\bar{e}nhovl \rightarrow m\bar{e}nhol$. 更に、規則(15)で弛緩母音化された緊張母音にも規則(17)が適用され、 $p\bar{e}nkeik \rightarrow p\bar{e}nkek$, $h\bar{e}deik \rightarrow h\bar{e}dek$, $b\bar{a}ndmeid \rightarrow b\bar{a}ndmed$, $b\bar{v}ldfeis \rightarrow b\bar{v}ldfes$, $n\bar{e}rov \rightarrow n\bar{e}ro$, $t\bar{e}lefovn \rightarrow t\bar{e}lefon$, $m\bar{e}nhovl \rightarrow m\bar{e}nhol$ となるが、規則(17)が消去するのは中母音の次の高母音であり、/u/, /v/ には適用されない。

$d\bar{o}gtv\theta \rightarrow *d\bar{o}gtv\theta$, $k\bar{e}tfvud \rightarrow *k\bar{e}tfud$, $d\bar{o}gslip \rightarrow *d\bar{o}gslip$, $br\bar{o}d\check{s}it \rightarrow *br\bar{o}d\check{s}it$.⁶⁾

前に New York と South では [m31mə], [pəv3is] という発音が聞かれると述べたが、/3/ を緊張母音 /3/ とし、規則(2)を適用してから規則(16)の(a)と(17)を適用すると

$m\bar{3}r\bar{m}\bar{3}r \xrightarrow{(2)} m31r\bar{m}31r \xrightarrow{(16a)} m\check{3}1m31 \xrightarrow{(17)} m\check{3}1m3$

$p\bar{3}rv\bar{3}rs \xrightarrow{(2)} p31rv31rs \xrightarrow{(16a)} p31v\check{3}1s \xrightarrow{(17)} p3v\check{3}1s$ となる。

強勢のない母音は、後で述べるが、/ə/ となり [m31mə], [pəv3is] と発音される。

dogtooth, *catfood*, *dogsleep*, *broadsheet* を [dógtuθ], [kætfud], [dógslip], [bródšit] と発音し、*food*, *seen* を [fuvd], [si:n] と発音する地方では、中母音の次の母音を消去するだけでなく、非低母音の次の母音を消去するという次の規則が必要である。

5) New York の一部では [hɔəs] 'hoarse, horse', [dɔə] という発音が聞かれる。前にも述べたが、この地方では基底表示 /or/ にこの規制を適用してから規則(13)で /o/ を /ɔ/ にする。

6) [dógtvθ] や [bródšit] のような発音がある地方で聞かれるかも知れないが、筆者には分らない。

$$(18) \quad V \rightarrow \phi / \left[\begin{array}{l} -\text{low} \\ -\text{stress} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---}$$

又、*dogtooth*, *food*, *dogsleep*, *seen* を [dɔgtuθ], [fud], [dɔgslip], [sin] と発音する地方は、規則(2)の二重母音化規則を、高母音 /i/ と /ū/ に適用しない地方である。

前にも触れたが、/ɔ/ は中母音ではなく低母音であるので、/ɔi/ の /i/ は消去されない。もし /ɔ/ を低め中母音に発音する地方があるとすれば、規則(18)で消去される母音と、消去される母音の前の母音に [α back] の特徴を加えなければならないのである。

二重母音の2番目の母音は、無声破裂音の前と /r, l/ の前で消去される。

$$(19) \quad V \rightarrow \phi / \left[\begin{array}{l} -\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} \left\{ \begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} -\text{continuant} \\ -\text{strident} \\ -\text{voice} \end{array} \right] \text{ (a)} \\ \left[+\text{vocalic} \right] \text{ (b)} \end{array} \right\}$$

規則(19)の(a)により、/ei/ が /e/ になるのは、Eastern New England, North Central, Southern Mountain, Central Midland, Northwest, Southwest Coastal であり、[ei] と発音するのは New York と South である。Western Pennsylvania では [e] と [ei] の両方が聞かれる。規則(19)の(a)により、*weit*→*wet* 'wait', *leit*→*let* 'late', *meipəl*→*mepəl* 'maple', *eit*→*et* 'ate' となるが、/keis/ 'case', /reɪni/ 'rainy' 等、無声破裂音が次に来ていない語には適用されない。

/ov/ の /v/ が規則(19)の(a)により消去される例は、特に Middle Atlantic に見られ、*hövp*→*höp* 'hope', *bövt*→*böt* 'boat' となる。他に単母音 [o] に発音される地方は、Eastern New England, Northwest, Southwest Coastal であるが、Middle Atlantic 程ではなく、たまに聞かれる。

前にも触れたが、緊張高母音が単母音 /i, u/ となるか、二重母音 /ii~ii, uv~vu/ となるかは地方によって異なる。Eastern New England, New York, North Central では二重母音はほとんど聞かれず、[diteɪ] 'detail', [klin] 'clean', [hju] 'huge', [gus] 'goose' である。他の地方は二重母音が聞かれ、規則(19)の(a)によって、特に Middle Atlantic, Western Pennsylvania, Southern Mountain では *liik*→*lik* 'leak', *diite(i)l*→*dite(i)l* 'detail' となるが、これらの地方では *siin*→**sin* 'seen', *grizɪ*→**grizɪ* 'greasy', *kliin*→**klin* 'clean' とはならない。

/uv/ が無声破裂音の前で単母音になるのは、特に Middle Atlantic に見られ、*stüvp*→*stüp* 'stoop', *mjüvt*→*mjüt* 'mute' となる。

Northwest, Southwest Coastal にも規則(19)の(a)は適用されるが、Middle Atlantic 程ではなく、二重母音 [ii, uv, ei, ov] もかなり聞かれる。

規則(19)の(a)は次の語には適用されず、*avt*→**at* 'out', *kart*→**kat* 'kite', *iksplɔɪt*→**iksplɔt* 'exploit' とはならない。

アメリカの全地方にわたって、規則(19)の(b)により、/r, l, ə/の前の母音が消去される。
piɪl→*piɪl* 'peel', *tuʊl*→*tuʊl* 'tool', *hɔʊrs*→*hɔrs* 'hoarse', *hɔʊəs*→*hɔəs* 'hoarse', *doʊə*→*doə*, *floʊə*→*floə* 'floor',⁷⁾ *roʊld*→*rold* 'rolled'. しかし *fail*, *hail* が [fel], [hel] と発音される地方はほとんどない。

North と North Midland では、*fire* は [faə] と発音される。これは規則(16)の(b)により /r/ が /ə/ となり、次の規則で /ɪ/ が消去される。

$$(20) \quad V \rightarrow \phi / \left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ V \end{array} \right] \longrightarrow [+vocalic]$$

又、これらの地方では *society* が [səsaɪtɪ] と発音され、規則(20)で /ɪ/ を消去し、次の規則で /e/ を /ə/ にする。

$$(21) \quad \left[\begin{array}{c} -\text{high} \\ -\text{stress} \\ V \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ -\text{tense} \\ V \end{array} \right]$$

fire, *society*, *power* の音声表示を派生する過程は次のようになる。

$$\text{faɪr} \xrightarrow{(16b)} \text{faɪə} \xrightarrow{(20)} \text{faə}$$

$$\text{sɔsaɪtɪ} \xrightarrow{(20)} \text{sɔsəɪtɪ} \xrightarrow{(21)} \text{səsaɪtɪ}$$

$$\text{paʊr} \xrightarrow{(16b)} \text{paʊə} \xrightarrow{(20)} \text{pəə}$$

これらの地方では /aɪ/, /aʊ/ が /ə/ の前で単母音になると知られているが、これは音声表示を見てのことであって、[faə] と [səsaɪtɪ] は、以上述べたように同一規則によって /ə/ になったのではない。

更に Southern Mountain と Middle Atlantic の地方にも、/aɪ/ の /ɪ/ を消去して、*fire* を [far], *while* を [hwal] と発音し、規則(20)を適用する所がある。

West Midland と Western Pennsylvania では *fire* と *far*, *tire* と *tar* は同じく発音され、[far], [tar] である。これらの地方では *fine*, *right* は [faɪn], [raɪt] と二重母音に発音されている。/faɪr/, /taɪr/ は、規則(20)により /far/, /tar/ となり、/r/ の前で低母音が *far*, *tar* と同じ発音の [a] になったと考えられる。

/r/ の前の低母音の範囲について、Kurath (1964) は次のように書いている⁸⁾。

7) [hɔəs, doə, floə] は Eastern New England と South にかかれる。New York はむしろ [ɔə] である。

8) Kurath (p. 108) はここで、/r/ が消去され、母音が比較的長く発音されると述べている。

In New England it ranges from low-front [a] to low-central [ɑ], in Metropolitan New York from low-central [ɑ] to low-back [ɒ]. In Virginia and South Carolina it is more often low-back than low-central, and along Chesapeake Bay (Baltimore to Norfolk) it is sometimes rounded to [ɔ] or a diphthong [ɔʊ].

前に New England と South では /er/ を [æə] と発音すると述べた。fire は New England では [faɪə] と発音され、South では [faə] と発音される為、fire と fair は同じく発音されない。South での fire と fair の派生過程は次のようになる。

fair^(16b)→faɪə⁽²⁰⁾→faə

fer^(16b)→fɛə→fæə

もしこの地方に規則(16)が(b)が適用されないなら、規則(20)で /far/ 'fire', /fær/ 'fair' となり、低母音が /r/の前で同一発音になり fire と fair は同じく発音されるであろうが、規則(16)の(b)が適用される為に同一発音とはならないのである。

規則(21)はアメリカのどの地方にも見られる英語の一般的な規則である。

m3rm3r→m3rmər, m3m3→m3mə, p3rv3rs→pərv3rs, p3v3s→pəv3s, fórest→fɔrɛst 'forest', næro→næə 'narrow', kælend3→kæləndə 'calender', tɛlɛfɔn→tɛləfən 'telephone', désɔlɛt→dɛsələt 'desolate', sɔsáɪɛtɪ→səsaɪɛtɪ 'society', sɔsáɛtɪ→səsaɛtɪ.

次の規則(22)は Eastern Virginia, New York, カナダ国境沿いの New England と、Michigan, Minnesota に適用される。

(22) $\left[\begin{array}{c} +\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{c} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ \text{V} \end{array} \right] / \text{---} \left[\begin{array}{c} +\text{high} \\ \text{V} \end{array} \right] [-\text{voice}]$

規則(22)によって低母音が [ə, ɜ, ʌ] と発音される。これら3つの発音は、中舌中母音である為自由変異が起っており、Gimson (1970) と Kurath (1964) は [ə] と [ʌ] に発音されるとし、Thomas は [ɜ] に発音されるとしている。

規則(22)により、twɔɪs→twəɪs~twʌɪs~twɜɪs 'twice', raɪt→rəɪt~rʌɪt~rɜɪt 'right', sʌvθ→səvθ~sʌvθ~sɜvθ 'south', aʊt→əvʌt~ʌvʌt~ɜvʌt 'out' となる。歴史的には、[əɪ, əv] は16世紀と17世紀初めの発音であり、17世紀後半から18世紀にかけて [ʌɪ, ʌv] となり、18世紀後半から [aɪ, av] になっている。

規則(22)が適用出来ない語は、houses, ride, nine, round 等、次に有声子音が来る語である⁹⁾。

9) New York では [ɔɪ] 'oil' のように、/ɔɪ/ が [ɜɪ] に発音されることがある。

イギリス、特にロンドンでは、低母音のみならず高、中母音が、無声子音の前だけでなく、語尾や有声子音の前でも中舌中母音化する。

plɛɪz 'please', ʃəʊ 'shoe', fæt 'fate', hɛɪd 'hide', bɔɪl 'boil', həʊm 'home', nəʊ 'now'.

前に South と Southern Mountain を除く地方では [aɪ] が支配的であると述べた。South Carolina の沿岸地方を除く South と Southern Mountain では /aɪ/ は [a^ɛ] もしくは [a^ɔ], /ɔɪ/ は [ɔ^ɛ] と発音される。

$$(23) \left[\begin{array}{l} -\text{back} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow [+mid] / \left[\begin{array}{l} +\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---}$$

規則(22)により、naɪn → na^ɛn ~ na^ɔn 'nine', saɪd → sa^ɛd ~ sa^ɔd 'side', taɪ → ta^ɛ ~ ta^ɔ 'tie', naɪt → na^ɛt ~ na^ɔt 'night', twaɪs → twa^ɛs ~ twa^ɔs 'twice', ɔɪl → ɔ^ɛl 'oil', nɔɪzɪ → nɔ^ɛzɪ 'noisy' となる。規則(23)により /ɔɪ/ は /ɔə/ ともなるのであるが、[ɔ^ɔ] という発音は知られていない。又、/əʊ/は、/v/ が後母音の為 [a^ɛ ~ a^ɔ] とならない。

South Carolina の沿岸地方では規則(23)は適用されず、*nine*は [naɪn] と発音されるが、無声子音の前では [ɛɪ] と発音される。[ɛ] は中舌高め低母音である。

$$(24) aɪ \rightarrow \varepsilonɪ / \text{---} [-\text{voice}]$$

規則(24)により、*night, twice* は [n^ɛɪt], [tw^ɛɪs] と発音される。

Virginia で無声子音の前では規則(23)が適用されず、次の規則により [əɪ] と発音される。

$$(25) aɪ \rightarrow \varepsilonɪ / \text{---} [-\text{voice}]$$

規則(25)により *night, twice* は [nəɪt], [twəɪs] と発音されるが、その他の位置では規則(23)が適用され、*nine, side, tie* は [na^ɛn], [sa^ɛd], [ta^ɛ] である。従って Virginia 地方では、規則(23)は次のように書き換えられなければならない。

$$(26) \left[\begin{array}{l} -\text{back} \\ -\text{tense} \\ \text{V} \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{l} +\text{mid} \\ +\text{front} \end{array} \right] / \left[\begin{array}{l} +\text{low} \\ -\text{back} \\ \text{V} \end{array} \right] \text{---} \left\{ \begin{array}{l} [+voice] \\ \text{C} \\ \# \end{array} \right\}$$

そり舌母音

$$(27) \left[\begin{array}{l} +\text{mid} \\ +\text{central} \\ \text{V} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} +\text{vocalic} \\ +\text{consonantal} \\ -\text{anterior} \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{l} +\text{retroflex} \\ \text{V} \end{array} \right]$$

規則(27)により /ɜr/, /ər/ が /ɜ̣/, /ə̣/ となる。[ɜ̣, ə̣] の発音は、Middle Atlantic, North Central, Western Pennsylvania, Southern Mountain, Central Midland, Northwest, Southwest Coastal に多く、前述の規則(16)の (a, b) の適用されなかった地方である。

mɜrmər → mɜ̣mə̣, pɜrvɜrs → pɜ̣vɜ̣s, letər → letə̣ 'later', bɜrd → bɜ̣d, letər ə gus → letə̣ ə

gus 'later a goose', ə r ə fju → ə ə fju 'or a few'.¹⁰⁾

規則(27)は中舌中母音だけがそり舌母音になる為、次の語には適用されない。

fɪrs, pʊr, skers, hors, dɔr, fair, flæv, far.

長母音化

$$(28) \left[\begin{array}{l} +\text{vocalic} \\ -\text{consonantal} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} +\text{vocalic} \\ +\text{consonantal} \\ -\text{anterior} \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{l} +\text{vocalic} \\ -\text{consonantal} \\ +\text{long} \end{array} \right]$$

規則(28)により、/Vr/ が一音節内の連続音の場合、母音が長母音となる。これは特に New York と South に見られ hors→hoɪs, fɪrs→fɪɪs, skers→skeɪs, pʊr→pʊɪr, mɔrnɪŋ→mɔɪnɪŋ, barnjard→barnjɑɪd 'barnyard', farm→fɑɪm 'farm' となる。New York も South も /r/ の前が低母音である場合は [fɑɪm] のように長母音に発音するが、基底表示が低母音でない語は規則(16)の(b)を適用し、/r/ を [ə] と発音する hoəs (<hovəs), hɔəs (<hoəs), fɪəs, skeəs, pʊə も多く聞かれる。

Eastern New England の大部分の地方では、hoarse は [hoəs] であるが、horse は [hoɪs] であり、[hɔəs] という発音は聞かれない。この地方の長母音化規則は次のようになる。

$$(29) \left[\begin{array}{l} +\text{low} \\ \text{V} \end{array} \right] \left[\begin{array}{l} +\text{vocalic} \\ +\text{consonantal} \\ -\text{anterior} \end{array} \right] \rightarrow \left[\begin{array}{l} +\text{long} \\ \text{V} \end{array} \right]$$

この地方では、規則(16)の(b)が適用出来ない語は、必然的に規則(29)を適用する。つまり、/wɛə~hwɛə/ 'where', /fɪəs/, /skeəs/, /pʊə/, /mɔənɪŋ/ 'mourning', /hoəs/ 'hoarse', /floə/ 'floor', /boəd/ 'board' の如く、非低母音の次の /r/ は規則(16)の(b)により /ə/ となるが、/mɔɪnɪŋ/ 'morning', /hoɪs/ 'horse', /fɑɪm/ 'farm', /kɑɪt/ 'cart' のように、低母音は規則(29)により長母音になる。

Eastern New England, New York, South 以外の地方は、規則(16)の(b)を適用する所が少なく、[hors, hors, fɪrs, skers, farm, pʊr] と [Vr] の発音が支配的である。又、規則(16)の(b), (28), (29)を適用しない地方は hoarse と horse, mourning と morning の発音を区別せず、[or] か [ɔr] と発音する地方でもある。

アメリカの各地方による母音の相異を音韻規則によって述べてきたが、ほんの一部の母音について述べたにすぎないのである。音声上からの母音の数はイギリスで発音されているのを含めると大変な数にのぼり、無数といっても良い程である。例えば /av/ の発音一つをとっても、[av, äv, av, äv, aɪ, æv, æï, ev, eï, ev, eï, ëy, äy, æö, eö, øv, äv] と17種あり、

10) or が /ər/ となるのは、/or/ が規則(13)で /ɔr/ となり、強勢がない為規則(21)で /ər/ となる。

もっとあるかも知れない。更に単母音 /ɜ/ には、中舌母音ではあるが、低め高母音から高め低母音の間のいろいろな発音が聞かれる。ある地方では大して相異のない [ɜ] を発音し、ある地方では高めと低めの [ɜ] を語によって区別して発音する。

最後に、この論文ではイギリスの音韻規則にはほとんど触れなかった。アメリカの発音へのイギリス英語の影響を研究するのも興味あることであり、又、アメリカへの移住民の音韻を調べるのも面白い。Black English に対する研究論文もよく出ており、これも又、アメリカ英語を研究するには興味ある問題である。

参 考 文 献

- Chomsky, N., and M. Halle, 1968, *The Sound Pattern of English*, Harper & Row, Publishers.
- Francis, W. N., 1958. *The Structure of American English*, The Ronald Press Company.
- Gimson A. C., 1970, *An Introduction to the Pronunciation of English*, Second Edition, Edward Arnold, Ltd.
- Kenyon, J. S., and T. A. Knott, 1953, *A Pronouncing Dictionary of American English*, G. & C. Merriam Company, Publishers.
- Kurath, H., 1964, *A Phonology and Prosody of Modern English*, The University of Michigan Press, Ann Arbor.
- , 1972, *Studies in Area Linguistics*, Indiana University Press.
- Leutenegger, R. R., 1963, *The Sounds of American English: An Introduction to Phonetics*, Scott Foresman and Company.
- Thomas, C. K., 1958, *An Introduction to the Phonetics of American English*, Second Edition, The Ronald Press Company.